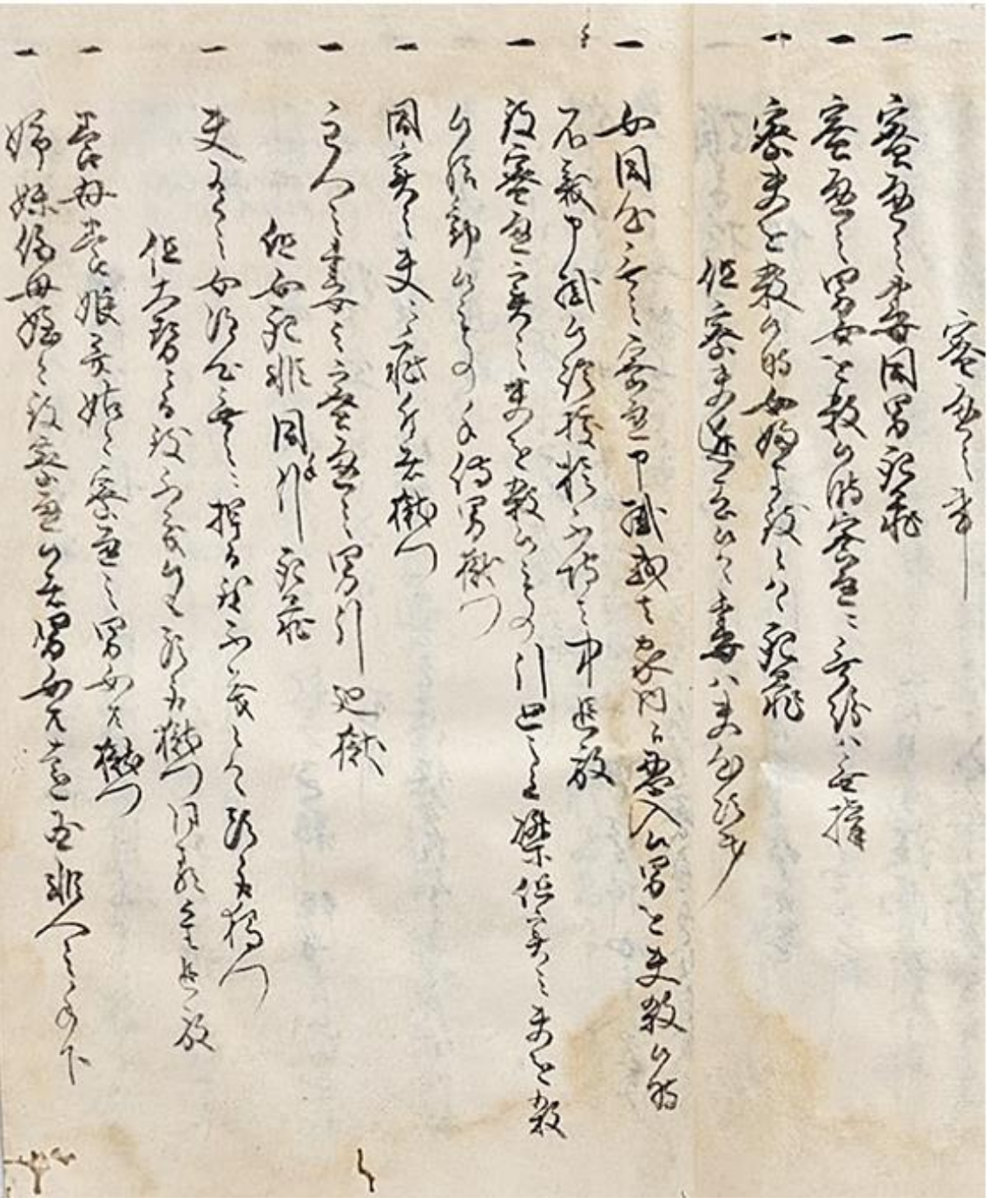


『公事方御定書』(くじかたおさだめがき)  
江戸幕府の基本法典。享保の改革を推進した八代将軍徳川吉宗の下で作成された。

上巻・下巻の二巻からなる。  
上巻は警察や行刑に関する基本法令を、下巻は旧来の判例を条文化した刑事法令などを収録している。

者のみが閲覧できる文書だった。それは「鬼は由らじむべし、知らじむべからず」という儒教的政治理念だけでなく、吉宗の政策が、刑の軽減を図るものだったため公開しない方が威嚇効果を維持できると思えられたためとされる。しかし実際には多くの役人が書写し、多くの写本が存在する。

(註略)



一 能別水より水を流す事と云ふは科  
 但利無の掬のりく百物と云はは科  
 能別水より他へ流す事切らる科 其の但り科  
 二 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 三 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 四 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 五 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 六 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 七 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 八 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 九 能別水より他へ流す事切らる科 但り科  
 十 能別水より他へ流す事切らる科 但り科

(中略)

右に奉違上同極公其獄  
 所係外有他見万浦者也

物所被津守

日 大慈親津守  
 大角才 石河上佐守  
 町奉行 信長河内守  
 日 出野勘馬守  
 町奉行 市下伊賀守  
 町奉行 津長尾守  
 町奉行 町奉行

文政二己卯年十月写書

D1

主人の妻と密通

(大坂町奉行所)

明和九年辛酉  
大坂町奉行所

一主人の妻に密通中なる妻自滅仕換の  
一件

當時文高

表八

右の妻の儀主人の妻に押向密通中なるを被  
得公明に恨む仕方有る由名中威儀方事紀  
主人表名表の儀毒子をす難纏い多しす儀  
表名表の儀儀儀方お察自害仕換出及恩儀辰  
重く不届仕極分獄門中付名大坂町奉行  
相伺由処禁中向も有る儀辰久世お雲書  
カ一上由

此儀主人の妻に密通中なる事記右妻  
自滅被名由も出雲中一上由通主人の子負由  
似妻小神に由産由御定書主人の子負由  
此の晒一上禁有る為子負由分ハ越忘  
懼き方も由産由処差為例も相見不中  
由乃右御定を見合出雲中一上由通不及  
晒確不

評決一通淋

一 表右邊の所が相尋の処不傳の箱お波不中由  
吟味書朱書中上高の表度比の古流式  
の候久世出雲中上水

以候吟味書之趣密通不得心の中書  
出之云趣是合儀も難斗中連海心之趣  
返書是趣は振子すは納是思之上兵八中  
暇也水の中又意趣合中も心附且ますは  
難縁の支一のます并親加右邊も  
之候中出入並趣無を儀候不元の爲一方  
不傳の月卒忽遠立難中一有由是式の月  
是當り例ハ相見不中由得た又十日押込

以又表右邊の所不元の元平の儀一件  
之内表八の仕並ありみ中一式は再應  
評議仕の処主人の爲子有由中の有之  
由節主人親談の月子傳水も有今  
由仕並の由中一習考式有表八の仕並  
本文の通評議お交中上水

一 且ますを難縁の由一連向の再縁仕の心慮の  
ます不致無の候も及見無事由由表右邊中一  
朱書の内有之ます候も再縁の儀お波中右  
中上水

以候再縁の由一此表右邊の箇由是水書  
之右中一候

評議の通御

寛政十二年申午  
町奉行  
根巻肥前守付

一 神奈川宿利右衛門長次郎方、若小女宿  
主又市密通以多一川一件

神奈川宿次右衛門

長又市方、若小女中一系

高村安富

主又市

右に之の儀才持放持、而親元久難、是在、  
律及子同稼、多一、此列杉木町、是在小市  
勇右方、發結、度、是裁、此、同人伴勢  
系富、此、中、養娘、お果、是、此、是、此、  
此、之、儀、是、此、力、此、附、是、一、此、儀、有、一、此、是、

中、此、是、主、勇、右、伴、勢、系、富、方、生、國、此、列、  
お早、此、地、是、老、父、も、有、一、此、兄、も、病、才、友、  
介、抱、不、行、届、越、是、月、連、も、立、戻、は、難、被、旨、  
難、別、方、此、得、此、扱、中、是、今、此、沙、法、も、是、一、方、才、介、  
行、分、度、名、中、一、月、夫、より、密、通、以、多、一、神、奈、川、宿、  
主、又、市、此、方、中、合、同、此、月、中、是、一、是、連、退、  
同、宿、長、又、市、方、此、連、系、は、得、大、長、一、世、活、も、  
難、成、一、も、得、心、一、儀、是、月、抱、女、是、公、一、出、一、  
右、結、合、を、稼、溜、小、金、子、中、親、元、久、難、一、此、  
一、此、方、長、又、市、并、子、是、清、徳、又、市、を、頼、新、右、市、町、

表三節方は拾女身公は差出給合指式支る月  
四支ること親元は酒合入用之支る備は也  
四支る後三百文余と不約い多し一お残る分  
衣類買支る外難用は拾始末勇旨難別有  
心得扱こと事も是に中安れ越亦吟味上  
支る遠儀は心得未難縁状も不支内右及  
始末は戻不届は身重追放

け儀一通り心得死罪お為りとの中産  
心得事三よ支勇旨儀仔細条宮か生國  
江列は孫裁中前若不立席小く難縁有  
心得身介斤月扱り一並養父新云来也も  
右く越中安勇旨出立後十月余お立  
心得も不立席は身介斤月扱ることよ  
中安れ方同人旨密通い多し小色の中は  
密支る御定は難引為根存肥前也  
差し別紙例書く編旨は定助女房は祢也  
密通い多し心得天定助は祢を女房い多し  
並の上尚又そのを女房い多し人別帳はも  
そのを女房く換り書出並か祢を妹く換り  
い多し心得大難縁は儀は不中安れ也の育  
今敢り重み節は前書く通勇旨不立席  
小く難縁と心得扱中一並儀友例く編旨  
よと承得中産小旨伺く通重追放

評談一通海

寛政二年辛酉

大坂町奉行

小田切玄作書伺

一 主人と娘と相對死の事一此一件

一 去る三日内浦安成小田切玄作書中一上此主人と娘と相對死仕由の事仕並伺書一讀仕由処  
 指別危系却又毛村地内同郡大石村或右妻娘  
 主人一旅交お果孫を或右主人兼孫も右  
 端折に自害仕扱小辨の事命に孫を由云右  
 不お合又毛村に就並發生為被由内不お叶  
 落命の事一依く或右主人初家内く此の事  
 吟味仕由処或右主人孫一人兼孫上下九人  
 著し孫を去酉十二月十八日夜又此家内不殘  
 却同夜八つ時に或右主人小用に起り初ん人候  
 寐間不孫在り為家内く此の事起り一此  
 兼孫候も寐間不孫在り由存分い多し  
 お尋内友人又毛村に右辨乃吳彦少振子  
 取り聲入由候の事而く振子不孫由候令く  
 密通の事一孫在中一合お對死の事  
 了も有る事外公為り候事一各親類同中

全茶花下人々分として一人娘と密通  
ひ多一人お對死て被り合んを救害  
ひ多一人茶花も自害仕被りお受不届  
至極此産出骨造造く死骸於右村方築中月  
おん人儀被命し得て非人存下てお受の右  
左村方同人死骸九拾

け儀茶花も之言不お介内お果此儀と  
此産出骨大武を中口は英場所へ振子亦全  
急おん人茶花密通く上お對死り合  
此儀之紛お受中此言造造恨おん主人  
娘を救り此の産出お果此死骸造造く上  
築にお成り儀は勿端く此産出死女も  
一乃死を得てく上中合お果此儀は此を救る  
中筋も有此産出骨被御定書に不我に  
お對死ひ多一人此の死骸九拾為吊り  
男被此但一方被命し下り人且主人  
娘と密通ひ多一人此の中造造と有く此  
見合いつてもお對死は主救と有り  
此産出骨被此月お對死く此定て此仕重く  
不乃此法おん人死骸九拾中此為吊り被

評談一通解





E 2	聳養子の実家神尾家の届出 →	
	雑事記	国立公文書館 蔵
E 3	井上日記の記述 ↓	
	享和二年正月十一日条	国立公文書館 蔵

一 町役書

山口郡大久保甲古中屋丸九ノ  
 納金五拜納金六ノ御家人三ノ  
 賜之中申受所番村之上子  
 中札庄古和宗ノ庄内田庄  
 又御社元長人正地ノ庄  
 勘合ノ事又太陽ノ長信  
 守ノ御ノ事院番海野事  
 御通石丸雷ノ家ノ使書  
 此ノ作  
 此ノ病ノ本邦ノ長ノ去秋  
 至方ノ妻養子ノ由  
 此ノ方ノ妻養子ノ由  
 此ノ方ノ妻養子ノ由  
 此ノ方ノ妻養子ノ由  
 此ノ方ノ妻養子ノ由  
 此ノ方ノ妻養子ノ由

養子の世の中養父被殺害の御由

私実弟之井台之御由西九中地ノ久井新在番ノ方北養  
 子ノ世の中不同人妻并伴台之御由此十七日被殺害ノ由  
 此ノ御由并御由又御由後世世世此ノ御由此ノ御由

九月十八日

申渡  
 神尾市番